

16.ポウサの集合住宅



「ポウサの集合住宅」は 1970 年代体制変革後初期の、まだ生活水準の低い、低所得者向けの集合住宅としてアルヴァロ・シザによって設計された。その後、不法侵入者に占拠され、工事は途中で終了。月日を経て建設が再開され、2006年ようやく全体が完成した。

ひらかれた中庭が特徴的だった。4つの平行に並んだ棟は中庭と2階にある外廊下でつながっている。印象的な階段はメゾネットになっている住宅の2階キッチンの勝手口となっている。洗濯物が干されたり、ペットが歩いたり、居住者の生活感がこの中庭に溢れている。放課後は子供たちにたまり場になっているのかもしれない。

玄関部分是对照的に閉鎖感があった。2重玄関となっており、カーテンやブラインドで閉ざされている。日差しが強いためか、窓が非常に小さいのも印象的だった。